

希望のこぼれ、うれしい入園・入学

町内の小、中学校、幼児センターで新入学の春を迎えました。小学校は4校合わせて70人(昨年より9人減)、中学校83人(同2人増)の元気な声が新学期の校舎に響き始めました。幼児センターは0歳から5歳まで63人の新しいお友だちを迎えました。

久しぶりのお友だちとご挨拶(幼児センター入園式)



伊藤園長は「挨拶をしっかりとしましょうね。毎日お友だちや先生といっぱい遊ばしましょう」と歓迎。5歳児の安井創馬くん、遠藤風花ちゃん2人が「たくさんのお友だちとなかよくあそびましょう」とおでむかえました。

◇ 町内の小、中学校はそろって4月5日に入学式を行いました。

東川小学校(前田昭彦校長、361人)では昨年より1人多い58人が入学しました。前田校長は「おはようございます、こんにちは、ありがとうございます」と元気なあいさつを一人ずつ出来る子になってください。食べ物好き嫌いをしないで、運動も一生懸命頑張る立



上級生の歓迎を受けて、新1年生が入場(東川小学校)

派な一年生になってください」と迎え、児童を代表して2年生の永井鞠百(まりも)さんは「私はこの学校が楽しいです。お勉強も楽しいです」と新入生を歓迎しました。新しい洋服、ネクタイ姿、初めての教室にみんなわくわく。教科書、交通安全の黄色いヘルメットをもらってランドセルに入れ、担任の新しい先生のお話に胸を躍らせて新しい勉強のスタートを切りました。



新しくなったブレザーを着て緊張気味(東川中学校入学式)

◇ 二小中学校は7人、第三小学校では2人が新たに入学しました。東川中学校(安達啓一校長、242人)では昨年より2人多い83人が入学しました。今年から紺色ブレザーの新制服に変わり、真新しい制服にひと際気持ちも新たな。中学校生活のスタートに緊張と期待が半々の足取りで会場の体育館に入場しました。担任が呼び上げる名前に答えて一人ひとり先輩上級生にあいさつ。竹内汐織さんは新入生を代表して「思い出の残る中学校生活を送りたい」と期待を表しました。

東小・竹中君、少年野球全道選抜チームで全国優勝



東川大雪野球少年団の竹中優晴(ゆうは)君(9)と東川小3年IIが第14回学童軟式野球三年生大会(3月24-25日、滋賀県多賀市)の北海道選抜チームとして出場し、全国優勝で凱旋しました。

4月2日、選抜チームコーチとして出場した小林弘明先生(33)らと一緒に優勝報告に来庁し、「5番打者の初打席に、先頭バッターでセンター前にヒットを打って盗塁決めた」と誇らしげに松岡市郎町長とがっちり握手。「プロ野球選手になりたい。そして甲子園大会に出たい」と将来の夢が大

きく広がったよう。5試合を戦い、準々決勝では過去6回全国優勝した強豪チームとも対戦したといい、小林先生は「盗塁を刺す子もいて、札幌の選手を中心に良いピッチャーにも恵まれた。本人は世界が広がったのではないか。優勝できたので、優勝は1、2年生の良い目標にもなっている。良い効果になった」と話しています。大会は小学3年生の甲子園大会と呼ばれ、3年後の高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会(小学6年の全国大会)を占う大会といわれているそうです。北海道選抜チームは今年5回目の出場選手16人中、上川管内からは初めて選ばれて出場しました。

初のソングライン祭り



4月21日、タイ王国のお正月行事「ソングラインまつり(水かけ祭り)」がせんとびゅあー旧名文化芸術交流センター(旧東川小学校)IIで初めて開かれました。タイのお正月は盛大に水を掛け合って新年を祝う行事を行います。4月、約2カ月間の短期研修生として9歳から19歳まで50人が来町し、昨年からは日本語を勉強している長期留学生17人と一緒に開きました。郷土料理、民族衣装、踊りなど珍しいタイ文化の数々を紹介しました。神

様を迎える儀式的踊りを披露し、場内を魅了しました。国民から長く尊敬を受けていたプミポン国王(ラーマ9世、2016年89歳で逝去)作曲の「グライレン」(朝焼け)を演奏、そして最後に「ヤームイエン」(夕焼け)では踊りの振り付けを披露しました。コミカルな「ソングラインダンス」など盛りだくさんのステージも。お釈迦様に水かけするソングラインや楽しいゲームで、タイのお正月を味わいました。

「北海道米は種祭」、豊作願って米作り始める



4月17日、東川町農協(樽井功組合長)の東川農業振興公社で「北海道米は種祭」を開きました。作付け米の種もみを育て、町内の米作農家に成苗ポット苗として配布しています。長原淳副町長、小林喜一農業委員会会長ら農業関係の代表6人がガラ

今年の町内作付面積は、「ななつぼし」「ゆめぴりか」を中心に、「ほしのゆめ」「きたくりん」など2千264・4畝(昨年比約53%減)。「ななつぼし」千47・5畝、「ゆめぴりか」735・4畝のトップ2品種で約8割に達

しています。東川町農協では、近年品薄状態の「東川米」ブランドを守り、生産規模拡大に期待をかけています。今年には北海道神宮神饌田(しんせん)で神饌米生産40年という記念の年。出来秋に記念式典も予定しています。